
ちょっぴり恥ずかしい ナイショの話

浮羽ゆ-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちよっぴり恥ずかしい ナイショの話

【Nコード】

N7752R

【作者名】

浮羽ゆ -

【あらすじ】

Smile Japan企画へ投稿の短編コメディです。

中学校帰りの田舎道。

ボクと幼なじみのリョーコちゃんは、オレンジ色の夕陽に照らされた路線バスに仲良く揺られていた。

「ねえ、ゆーくん内緒の話があるんだけど」

モケット生地の子い座席で、リョーコちゃんが顔を寄せてくる。

リョーコちゃんは最近ぐっとオトナっぽくなって、そんな間近で上目使いに見つめられるとボクはドギマギしてしまうのだ。

「な、なに？」

「こんなこと、人に言うべきじゃないと思うんだけど。私、どうしても、いいのかわからなくて……でも、ゆーくんには、思い切って打ち明けたいの、聞いてくれるかなあ？」

「もちろんだよ」

ボクは不自然なほど力強く肯く。

それでリョーコちゃんは周りの乗客に聴こえないように囁いた。桜色の唇が鮮やかな夕陽の色彩を、はね返す。

「昨日ね……私、はじめてしちやった」

「えええ！」

驚いて、思わず叫び声が漏れる。

まばらな周りの乗客たちの視線が、一瞬集まった。

「もあ、ゆーくん声大きいよ」

リョーコちゃんは学生ズボンの上から、ボクの太ももをつねり上げてくる。

「ゴ、ゴメンよあ……で、何をしちゃったの？」

「昨日の夜、お布団の中でね、うとうとしてたら、なんか体がむずむずしてきたの」

ボクは息を飲み、話に聞き入った。

見つめてくるリョーコちゃんの大きな瞳が、かすかに妖しく潤んでいる。

ゴクリとのどが鳴った。

「それでね、あ、なんか変だなと思ってパジャマの中に手を差し入れたの」

ボクはもう、リョーコちゃんからこぼれる言葉に夢中だ。

「それで？」

できるだけ落ち着いた素振りでも小聲で尋ねる。でもどこか上ずった声を出しているのが自分でもわかる。

「うん。そしたらね、なんか電気が走ったみたいになって、体に触れているのに、感触がとろけるといつか……」

リョーコちゃんは喋りながら美しい小鼻を収縮させた。それはすぐ側にあるのに、どこか遠い世界のおとぎ話の女の子を連想させる可愛らしさだった。

「それで、体中がほわ〜んとして、しびれるようで、そして次第に血液が熱く巡り始めて、そして、とうとう体から……」

そこまで言うとりョーコちゃんは、恥じらいでうつむいた。

ほんのりと染まる頬と夕陽の色が混じって、ボクには不思議と彼女が泣いているようにも見えた。

顔を覆ったつややかにほつれた前髪がキラキラと光っている。

体から何？　ボクはそう思いながら、黙って彼女の言葉を待ち続けた。

しばらくして、彼女は顔を伏せたままつぶやいた。

「……出ちゃった」

出ちゃった？　え！？　ナ、ナニがああ？

そして、彼女は意を決した風に顔を上げ、その美しい造りの瓜実顔でキツとボクを軽く睨むように言った。

「だ・か・ら！　出ちゃったのよ体から！」

「体から？　だから、何がでしょうか？」

「た……魂っ！」

「はい？　た・ま・しい？」

「……そう、昨日の夜。私、はじめて幽体離脱しちゃいました」

* * *

「でね、ゆーくん。ここからが本題なんだけど」

「え？ ……本題？」

まだ、続きがあるみたいだ。

「昨日幽体離脱してから、私ね、魂だけで街中を飛び回ったの」

「へえ、そんなこともできるんだ。スゴイね！」

「それで、昨日ゆーくん家の横も通り過ぎたんだ。夜の十時ごろ」

「ふむふむ……えええ！！！！」

リョーコちゃんは、夕陽より、さらに頬を赤らめてボクに告げた。
「……ゆーくん。ああいうことは、カーテン閉めてしたほうがいいよ。外から、丸見えだから」

恥ずかしい。

そう…… 思い返せば昨日の夜。

ボクは布団の上でパンツ一丁の格好になり、フンフンと鼻息を荒げ、右腕に血管を浮き上がらせるほど力を込め、体中から汗を染み出させながら、鏡に向かって……

ボディビルディングを^レしていたのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7752r/>

ちょっぴり恥ずかしい ナイショの話

2011年10月3日19時53分発行